

ディーラーズ・マインド

「受け入れる」

ディーラーとして生きていく為の土台は全てシンガポール駐在時の時に培った。

この業界でのキャリアは、米国から帰国後に上京し、茅場町にある某会社の国際事業部門がスタートになる。

英語が使えて数年後には米国で働ける様なポジションを探していた為、NY現地法人が有り海外出向要員としてのポジション募集、という願ったり叶ったりの話は本採用まで時間が掛からなかった。採用から入社まではウォール街でバリバリ働く数年後の自分を想像しながら金融の本をあさっては勉強していたのを覚えている。

ところが、である。入社後、部長から「アジアとゴム」頼むよ、と一言告げられ、以降人生が大きく変わった。アジアとはシンガポール（現地法人）とその周辺国で、ゴムとは天然ゴム市場の事である。

将来の展望がねじ曲げられた様に感じたのを覚えている。

入社後僅か数カ月での辞令となったのだが、それから実際の出向までの数カ月間は地獄であった。

ゴム？…何だそれ、シンガポール？…本当に知らない興味もない。

かなり生意気で勝気な性格であったため、クビ上等で拒否し続けた時期も当然あったが、ある時を境に姿勢を正す事になった。

マーケットを見ている時に、同じフロアの間人達と上か下か広がるか縮まるかという話をしていたのだが、結果として自身の予測が全てドンピシャで嵌まったのだが、この時、心臓がバンバン鳴って、初めて将来続けていく仕事が「これ」だと強く認識した為である。

出向は本意では無いが、出向中に一端のディーラーになる目標だけを支えに、上の命令を受入れシンガポールに渡ったが、やはり当初は受け入れるのに相当の労力を要した。

米国英語を話せばシングリッシュを話す人間はあからさまに不快さを表現するためコミュニケーションの苦勞もあったが、何よりPC一台壊れた程度で大騒ぎして、稟議を通した

めに何人もの人間が関わり、幾つものハンコを必要とするような事ばかりしている馬鹿げた環境に疲れ切っていた。

ただ、起こった問題には全て人が関わっており、それらは自分次第で解決できるものと理解してからは物事を別の角度から考える必要があると感じる様になった。

アメリカは人種のるつぼと言われるが、シンガポールはもっと多様な面を加え凝縮した国であり、仮にこれらの人を上手くコントロール出来れば日常の業務はもとより、マーケットの心理も分かるようになるのでは、と気づいたのである。

それ以来、自らあらゆる人種と積極的に関わり、その人たちの文化や宗教を学びコミュニケーション能力を高めるよう努めていったのだが、やはり効果も少しずつ表れ始め、相手がマレー、インドネシア、フィリピン、中国、インド、アラブどこであっても上手くコミュニケーションが出来るように成長していった。

その、相手の背景を知り理解しようとする行為は、マーケットを読む能力にも磨きを掛けた。ちょっとした数字、指値の場所、ポジションの移り変わりにも気づき、且つ行き先もイメージできる様になったのは実際その頃からであった。

勿論、シンガポールがディーリングする対象の生産国に囲まれていた利点や、担当を任されていたのが商社で、そのダイナミックな売買を体感できた事がディーラーとして大きく飛躍させてくれた理由の一つであるのは間違いない。

しかし、物事がスムーズに進み始めたのは、この国に来て、何とか文化も考え方も異なる人たちの考えを理解したかったという気持ちと、そこから実際に移した行動が原点であったことに変わりはない。

それから少しの時間が過ぎ正式にディーラー職に就くため帰国する事になるのだが、シンガポールを去る時はやはり少し寂しい気がした。

最初は会社の命令でしぶしぶ受入れた国であるが、実際は人間としても、ディーラーとしても必要な土台を全て与えてくれた大切な国となった。

今も昔も変わらず、ジジイがカンファレンスという名目で、ゴルフとキャバクラを満喫しに来る国のイメージは拭えないが、私にとっては思い入れのある国である。

この頃の経験から、現在でも「(自分と) 違う」と感じたとしても「必要」という直感が働いた物事は受け入れる様にしているが、基本的に得られた効果はとても大きい。

「頑固な自分が受入れる事を知り少し成長した」程度の内容を何故にここまで長文で引っ張ったのか、書き終わって不思議に思う。

はい、

最後はチャート。シンガポールと言えばSGX、SGXと言えばA50や鉄鉱石という事でオージー（キウイ）トレーダーは、最大の輸出国+最大の輸出品目という事で当然見ている市場。

感じるのは、ボラのあるもの同士に無理やり整合性を持たせるより、もっと楽に純粹に見たら物事スムーズになるのに、と常々思う。

という事で、オージーと鉄鉱石（SGXは無いのでNYMEXデータ、失礼！）

これを、どう実践に織り交ぜるか。これが一番楽しい美味しい作業。



—このレポートにしまして—

当レポートの著作権はすべてバーグインベスト株式会社（Burginvest Co.,Ltd.）に帰属し、「ゴールド・オイル・通貨の取引を学ぶコミュニティ」外への転載および無断引用は固くお断り致します。

また当レポートは、会員個人のみが閲覧いただき、法人内・コミュニティ外での回覧・シェアは固くお断りしております。（後日、回覧人数分の料金を申し受けます）。無断の転載などを見つけた場合、著作権者までご連絡ください。

また、このレポートは、市場の研究とその情報の提供を目的としたものです。投資方針や時期選択等の最終判断はご自身で判断されますようお願いいたします。なお、本サービスにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、バーグインベスト株式会社は一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

ご理解をいただきまして、ありがとうございます。